

(当テキストは決算説明会における説明を元に投資家の皆様の利便性を考慮して、要約としてまとめたものです。当日の説明を一言一句書きとめたものではありません。ご了承ください。)

P2 「2010年3月期決算<概略>」

- ・ 当期純利益は前年同期比で326%、税引前利益は85%の大幅増益を達成。また、営業利益は通期では前年同期比11.5%と減益ながら、下期からは対前年同期増益に転じました。4四半期連続で対前四半期増益も達成しました。
- ・ 第4四半期は売上が前年同期増収に転じました。地域的には、既に増収基調に転じていたアジア・パシフィック地域に続き、日本、米州、欧州でもボトムは脱したと判断していますが、まだ楽観はしておりません。
- ・ 新規事業として位置づけているプロダクションプリンティング事業、MDS やITサービスなどは着実に成長を続けており、今期もこの流れを加速させたいと考えています。
- ・ 構造改革を進め540億円の経費削減を実現しました。経費削減のみならず、総資産の圧縮、在庫圧縮や設備投資見直しなども引き続き進め、通期で1,011億円のフリーキャッシュフローを創出しました。
- ・ 2011年3月期は、新規事業の成長加速と、構造改革の継続・強化により、営業利益で前年比28%、当期純利益で25%の増益を目指します。
- ・ 2011年3月期の配当金は年間33円の予定といたしました。

P3 「2010年3月期 4四半期累計(12ヶ月)実績」

- ・ 売上高は前年同期比3.6%の減収でした。為替影響を除くと1.1%増収ですが、IKON買収効果が1,400億円含まれており、その影響を除くと実質的には約5%の減収でした。
- ・ 営業利益は前年同期比11.5%の減益となりましたが、構造改革による経費削減、第4四半期販売増加による利益増、プロダクトミックス改善と製造原価低減などで、第3四半期決算時点の見通しからは、209億円の増収となりました。

P4 「2010年3月期 4四半期累計 営業利益:前年比増減分析」

- ・ 売上総利益ではIKON連結影響分で約630億円の利益増、それ以外の販売減による利益減が約480億円で、合計で約150億円の増益となりました。
- ・ 製品原価低減で前年同期比100億円、研究開発費低減で145億円の増益要因となりました。
- ・ その他経費ではIKON連結影響分で670億円の経費増がありましたが、構造改革による経費削減395億円などで合計230億円の経費増となりました。

- ・ 為替影響は 250 億円の減益要因となり、これらの要因をネットすると前年同期比で営業利益は 85 億円減少しました。
- ・ 2009 年度は構造改革によって、約 540 億円を創出(研究開発費 145 億円削減と経費削減分 395 億円などの合計)。第 3 四半期決算時点の見通しからは、構造改革の効果として 40 億円の上振れとなりました。

P5 「2010年3月期 第4四半期累計 分野別売上高」

- ・ 事業分野のほとんどが前年同期比で減収となる中、ネットワークシステムソリューションは前年同期比 16.9%、為替影響を除くと 20.6%と大きく伸びました。当社が力を入れている MDS や IT サービスなどの新サービスが着実に伸びています。

P6 2010年3月期 第4四半期累計 連結セグメント情報:事業別(1):画像&ソリューション分野」

- ・ 分野別では画像 & ソリューション分野で前年同期比 2.3%の減収(為替影響を除くと 2.8%の増収)。IKON 影響(約 1400 億円)を除くと 4.9%の減収。
- ・ 画像ソリューションは、主要製品の販売減により、前年同期比 5.2%の減収(為替影響除くと 0.2%の増収)。
- ・ ネットワークシステムソリューションは MDS や IT サービスなどのソリューション事業が拡大し、前年同期比 16.9%の増収(為替影響除くと 20.6%の増収)を達成。
- ・ 地域別としては、日本 5.2%と厳しい結果ながら、第 4 四半期は前年同期比 7.8%増収とプラス成長に転換。
- ・ 海外は前年同期比フラット(為替影響除くと 8.2%の増収)、IKON 連結効果を除くと 4.7%の減収だが、第 4 四半期に欧州が前年同期比プラスに転じるなど事業環境は着実に改善。
- ・ 営業利益は、昨年の 2008 年の度第 4 四半期をボトムに 4 四半期連続で増益を達成。

P7 「【参考】画像&ソリューション分野 最近のトピックス」

- ・ この第 4 四半期は、MFP、プリンタを中心に新製品の投入を行いました。
- ・ 3月にはプロジェクションシステム事業参入を発表。
- ・ リコージャパンの設立で、日本、米州、欧州、アジアパシフィック、中国のグローバル5極の新体制が整います。

P8 「2010年3月期 第4四半期累計 連結セグメント情報:事業別(2):産業分野」

- ・ 営業利益は13億円の赤字だったものの、前年同期比では増益となりました。
- ・ 2011年3月期では着実に収益を改善し、黒字化できると考えています。

P9 「2010年3月期 第4四半期累計 連結セグメント情報:事業別(3):その他分野」

- ・ 事業環境は厳しく減収減益となりました。
- ・ デジタルカメラ事業では、世界初のレンズユニット交換システムを採用した新製品「GXR」を投入したことなどで、今後の拡大に期待しています。

P10 「2010年3月期 第4四半期累計 連結セグメント情報:所在地別(1):日本、米州」

- ・ 日本では、8.6%の減収となりましたが、構造改革を進めた結果、下期からは前年同期比増益に転じることができました。第4四半期からは、前年同期比で増収に転じており、今後は増収・増益基調へ転換するものと見ています。
- ・ 米州は、IKON 連結影響があり、大きく増収となりましたが、IKON の影響を除いた実質ベースでは減収となっています。需要の環境は徐々に回復しつつあると認識しており、2011年3月期は増収基調に転じるものと見ています。営業利益では、2009年度第4四半期はほぼ赤字が無くなるころまでできました。2011年3月期は黒字に転換できると考えております。

P11 「2010年3月期 第4四半期累計 連結セグメント情報:所在地別(2):欧州、その他」

- ・ 欧州では、欧州経済危機などによる需要環境の悪化により、売上高は大きく減収となりました。
- ・ 一方で、欧州地域で進めている組織統合などの構造改革の成果などにより、営業利益は前年同期比で107億円の増益を達成しました。第4四半期は、売上高も前年同期比で増収に転じておりますので、2011年3月期は売上成長による利益増加を期待しています。
- ・ その他地域では、昨年後半から需要が回復してきておりますが、グループ内売上減少の影響で、全体では減収となりました。営業利益は対前年同期で16億円の増益を達成しました。

P12 「連結貸借対照表<2010年3月末>」

- ・ 投資の抑制、在庫の適正化をはじめとする、運転資金のコントロールを進め、主要な勘定の残高は、前期末(2009年3月)に比べて減少しました。
- ・ 営業活動や投資活動から生み出したキャッシュと、現預金の水準を引き下げたことで生まれたキャッシュによって、有利子負債を947億円返済することができました。

P13 「【参考】連結貸借対照表:主要指標推移」

- ・ 総資産回転率は売上の減少に伴って、回転期間が若干悪化しています。
- ・ 株主資本比率は、40.8%と改善しました。
- ・ 棚卸資産回転期間は、「1.70ヶ月」と大きく改善することができました。
- ・ D/E レシオは、負債の返済を行ったことにより、前期末から改善しました。

P14 「連結キャッシュフロー計算書 < 12ヶ月分 >」

- ・ 内部留保が昨年度の1,106億円から1,287億円と増加。営業活動によるキャッシュフロー合計では1,907億円の収入と、前年から大きくキャッシュを創出することができました。
- ・ 投資活動によるキャッシュフローは、前年度にIKON買収による大きなキャッシュアウトがあったことなどもあり、前年度から大幅な支出減少となりました。
- ・ フリーキャッシュフローは1,011億円の収入となり、前年比で2,968億円の増加となりました。

P16 「2011年3月期 通期 業績見通し」

- ・ 需要の回復傾向に加えて、新規事業の成長を加速させることで、売上高は1.7%増収の2兆500億円を目指します。
- ・ 利益は、増収効果と合わせて、構造改革による成果の取り込みをさらに進めることで、営業利益28.8%、税引前利益30.4%増益、当期純利益25.6%の増益を目指します。
- ・ 構造改革を引き続き展開し、今年度は、リソースのシフトなどによる新規事業の成長実現のフェーズに入ります。経費は引き続き厳しくコントロールし、販売管理費は前期とほぼ同額にとどめております。
- ・ 研究開発費は、新製品投入などを予定しており、若干増加する見込みです。
- ・ 設備投資は、研究開発拠点の新棟完成などの投資や、新製品投入に伴う型代の増加などがあり、前期より若干増加する見通しです。
- ・ 減価償却費は、前期に設備投資を見直して絞った影響で減少する見通しです。
- ・ 為替レートは、ドル90円、ユーロ120円の前提としています。

P17 「2011年3月期 通期 営業利益見通し: 前年度比増減分析」

- ・ 2009年度の営業利益659億円に対し、2010年度は販売増などによる増益、円高による減益などのネットで、営業利益850億円を目標としている。
- ・ なお、為替影響の前年同期比200億円の減益要因は、総利益は370億円減益、販管費は170億円増益のネットとなっている。

P18 「2011年3月期 通期 分野別売上高見通し」

- ・ 売上高に占める新規事業比率を、前期実績の15%から今期16%に増加する見込みです。
- ・ 新規事業には、プロダクションプリンティング、MDS、ITサービス、プロジェクションシステムなどが含まれています。

P19 「【参考】連結財務指標推移（年度別）」

- ・ 配当金見通しについては年間33円の予定です。中期的な配当性向の目標は30%としておりますが、現在は利益回復過程ということで、68%と高い水準となっております。